

令和3年度 大阪府立農芸高等学校 第1回学校運営協議会【文書による開催 意見書】

1 実施方法 文書による意見聴取

2 提出・聴取期日 令和3年7月31日

3 学校運営協議会委員 意見聴取者 6名

PTA会長 千葉 様 同窓会会長 田中様 堺市美原区区长 澤田 様

大阪農業大学校 中井 様 (D) さつき野学園校長 中曾 様

4 聴取内容及び意見

○今日の課題である、SDGsや地域創生ジェネラリスト育成を視野に含めた目標設定は素晴らしいと思います。一方、この目標設定に取り組むことが困難である、発達特性や心理的課題をもつ生徒に対する指導への配慮についての検討が一層必要になるのではないかと推察します。

○長引くコロナ過の中、教職員のご努力により学校運営計画が概ね達成されていることに敬意を表します。

R2の実績の中で、中退学者が0人となっている点、さらには自己診断(生徒)「教え方に工夫がある」の肯定率が8割以上となっている事は先生方の努力の賜物であると思います。

これを踏まえ、R3の計画で3(2)ウの「中退や不登校を未然に防止し、前年より▲10%」としているが、前年度であるR2年度が0であるため内容に齟齬があるのではないかと推察します。

SPHの成果としてカリキュラムマネジメントを取り入れた新たな教育課程に期待しています。

○コロナ過が続く中従来の外部交流が自由にならなくなっています。

○農芸高校ブランド創出の先のチャレンジとして生徒によるアンテナショップ開設起業プロジェクトに発展すると素晴らしいのではと思います。

○情報発信の手腕を取りつつ農業経営の学習からビジネスマネジメントの学習へと農芸生で新たな可能性が展開されると思います。

○「めざす学校像」の実現に向け、着実に取り組んでいると思われます。授業展開で予習、復習が重要と思われる。取り組むための工夫が必要。

○感染症予防対策と並行して、栽培管理や動物の管理体制の確保など、ご苦勞が多かったと拝察いたします。そんな中、就職内定率100%達成や農業関連学部への進学など、卒業後の進路選択におかれても手厚く指導されていると感じております。

○昨年度に培った「SPH」のノウハウを活かしながら、新学習指導要領に則った評価方法の定着を目指していただきたい。

○子どもたちが成長できるように先生方が取り組まれていることがよくわかりました。

今後も子どもたちのことをお願いします。

(2) 教科書採択について

○選定理由が明確でかつ、生徒が実際に使用するにあたって視覚(図や表・写真)やタイムリーな事案が含まれているかなど多方面から選定されています。また、専門分野(農業・生物)については実践的な体験活動事例などが含まれているものを採用されており適切に採択されていると思います。

(3) 農芸生アンケート結果について

○発達特性や心理的特性があるからこそ、貴学のカリキュラムによる指導で、生来もつ力を発揮できる生徒も多いかと思います。日々臨床の中でも貴学に適応すると考える方には、ご紹介しております（繋がるのが難しいのですが）。

○「座学の授業はわかりやすく楽しい」の肯定率が76.5%達成している事が素晴らしい自己診断（保護者）で「家庭連絡や意思疎通を積極的に行っている」で8割以上の肯定率は素晴らしい。

○その他に記載

○学校生活に関する項目について、家庭での学習時間の減少が高学年につれて目立つとのこと。卒業後の進路に大きくかかわってくるころなので、「何のために学習するのか」「就職するから勉強は必要ないのか」学習の根本を理解させる必要があるかもしれない。また、学校への帰属意識が少し低いことも気になる。生徒会活動や部活動への参加で「自分たちの農芸高校」という意識がもう少し高ければ良い。

○よく分析をされていると思います。その結果をいかにフィードバックさせるかが大切だと思います。

○1日あたりの勉強では、レポートなどをしているので、その時間は入っていないのではないのでしょうか？

(4) その他

○コロナ禍において多くの制限を受ける中のご指導、大変なご尽力であったとお察し申し上げます。先生方、くれぐれもご自愛くださいませ。

○SPH事業で達成した成果を如何に教育課程に実装していくかが、重要な課題だと思います。5「地域の農業高校として広がりのある教育の展開と情報発信」について、美原区としても貴校の情報発信力に期待しておりますので、更なる連携による魅力発信にご協力をお願いします。

○卒業生には、農業企業など各分野で高い評価を得ている人材が多数いらっしゃいます。農芸という同じ環境で過ごした経験を踏まえ生徒の指針となる交流が持てるのではないのでしょうか

○農芸の先生方は非常によくやっただけです。